

## 修士論文要旨 (日本語)

### 題 目

看護実践の自律したリフレクションを支援する e ポートフォリオ・プロトタイプの開発

### 要 旨

看護職には、「リフレクティブな実践家」であることが求められており、そのためには、まずは「行為についてのリフレクション」の訓練が必要である。筆者の勤務する大学病院では、看護職のキャリアアップをサポートするために e ポートフォリオの導入を決定しているが、標準機能にはポートフォリオの過程に重要であるリフレクションのサポート機能が不足している。また、看護の現場では、インシデントやアクシデントの「振り返り」は頻繁に実施されている一方、看護実践の「リフレクション」は十分に実施できていない。そこで、本研究では、看護実践の自律したリフレクションをサポートするツールとして e ポートフォリオを活用できると考え、ADDIE モデルに沿ってプロトタイプの開発することで、そのための要件を明らかにすることとした。(第 1 章)

最初に分析フェーズとして、現状の問題点を整理し、先行研究調査を通して得られた知見から、e ポートフォリオに必要な機能の洗い出し、リフレクションを構造化・可視化するためのフレームワークを選定した。それらに、ARCS モデルおよび Merrill の第一原理をベースとした方略を併せ、自律した看護実践の支援方略を抽出し、e ポートフォリオの要件を定義した。(第 2 章・第 3 章)

設計フェーズでは、分析結果をもとにプロトタイプを設計し、紙媒体によるワークシートを作成した。そして、第 1 次評価として、指導的立場にある看護職 6 名を対象に形成的評価を実施し、支援方略の方向性の有用性を確認した。(第 4 章)

それらの結果をふまえて、開発フェーズでは、Moodle 上にプロトタイプを開発した。第 2 次評価として、このプロトタイプの改善点を抽出するため、ID・IT 分野のエキスパート 5 名によるレビューを実施し、ユーザ・インターフェイスやインストラクションに関する問題点に対応した。(第 5 章)

改善したプロトタイプを用いて、試行フェーズでは、筆者の勤務する病院に勤務する 2～6 年目の看護職 5 名を対象にリフレクションを試行した。第 3 次評価として、アンケート評価および半構造化インタビューを実施し、支援方略の有用性と効果について評価した。

これらの結果、看護実践の自律したリフレクションを支援する e ポートフォリオの要件として、(1)インターネットでのアクセス、(2)デジタルテキスト入力、(3)「関連性」「自信」の動機づけ、(4)プロセスの構造化・系列化と可視化、(5)レベル別の入力フォーム、(6)サンプルの提示、(7)応用の場、(8)個人毎の記録の蓄積、(9)他者との共有の場が抽出された。そして、これらの要件を満たすプロトタイプを用いて試行した結果、被験者からリフレクションの効果として、(1)普段は取上げられない出来事を考える機会となる、(2)インシデント等の「振り返り」と比較して肯定的に受け容れられるという効果があると示唆された。

(第 6 章)

今後の課題として、幅広い背景の看護職を対象とした試行、リフレクションを独善的にさせないためのサポート、簡易版入力フォームの開発およびスマートフォン対応が挙げられた。また、今後の展望として、ナレッジマネジメントツールへの応用、看護職の能力向上に対する効果の検証、看護職の評価に用いられている指標の根拠としての活用が期待される。(第 7 章)